

## あなたを助けて

災害時には目の前にいる大切な人を助けられないこともあります。今回は、徳島県海陽町の史碑と香川県小豆島町の塔にまつわる話をお伝えします。

### ■震災後 50 年 北海道地震津波史碑（徳島県海陽町の浅川出張所前）

昭和 21 年（1946）12 月 21 日の南海地震の津波により、海南町（現海陽町）浅川では死者 85 人、負傷者 80 人、家屋の流失 185 戸等の被害が出ました。震災から 50 年後の平成 8 年（1996）に、先人の教訓が語り継がれることを願って史碑が建立されました。碑文の冒頭に「“お母ちゃん行けんもん” 助けを求めるあの声を思い出したら、今でも辛うて……」と記されています。これは、津波で二人の子を亡くした母親の体験談がもとになっています。地震後、この家族は持ち物を準備していたことなどから逃げ遅れ、逃げ始めた時には津波が押し寄せていました。四女を背負っていた長女は、「お母ちゃん行けんもん」と言います。柴や材木、道具がたくさん流れてきて、行く手を阻まれたのです。母親は助けたくてもどうすることもできませんでした。長女と四女はこの世を去りました。（参考資料：海南町編「南海地震津波の記録 宿命の浅川港」1986 年）



### ■やすらぎの塔（香川県小豆島町の内海総合運動公園内）

昭和 49 年（1974）7 月 6 日、台風 8 号に伴う集中豪雨により、内海町（現小豆島町）では土石流が発生して、死者 29 人、重傷者 18 人等の被害が出ました。その復旧工事が完成間近の昭和 51 年（1976）9 月 8 日から 13 日にかけて、内海町では台風 17 号に伴う豪雨により再び土石流が発生し、被害は死者 7 人、重傷者 18 人等に及びました。内海町では、昭和 55 年（1980）に二度と悲しみの歴史を繰り返さないように、土石流の土石を集めて慰霊碑を建てました。慰霊碑の前に建つスコップを持つ女性の像からは、土砂に埋まった家族を一刻も早く救い出したいという思いが伝わってきます。（参考資料：内海町災害の記録編集委員会編「昭和 49 年 7 月台風 8 号による集中豪雨 災害の記録」1975 年及び同「昭和 51 年 9 月台風 17 号による集中豪雨 1,400 川の爪跡」1977 年）

